

〈2015年NPT再検討会議にあたって〉

核兵器廃絶のアピール：古都京都から世界の人びとに訴える

日本の古都京都から、核兵器廃絶のアピールを、世界の人びとに発します。

広島・長崎に米軍によって原爆が投下され、一瞬にして多くの人びとの命が失われて70年になります。その後、米ソ核軍拡競争のなかで、核兵器はイギリス・フランス・中国へ、さらにはイスラエル・インド・パキスタン・北朝鮮へと拡散しました。他方では1954年、南太平洋ビキニ環礁における米国の水爆実験による日本漁船乗員の被曝、また1986年にはチェルノブイリ原発の事故、2011年には東日本大震災による福島原発の事故などにより、人類絶滅を思わせるような放射能物質による被害の巨大さと恐怖を、人類は重ねて体験しました。

京都が生んだ、日本最初のノーベル物理学賞受賞者の湯川秀樹博士は、「核兵器を必要悪」とする「核抑止論」に反対し、人類と核兵器は共存できないと主張しました。私たちは、この湯川博士の遺志を継承しつつ、加えて戦後70年にわたる「核」をめぐる幾多の悲劇的体験に立って、もはや「人類と核」は共存しえないことを確信しました。

2015年4月、ニューヨークにおいて核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議が開催されます。私たちは、この会議において、人類の生存を危うくする核兵器を廃絶するために、「核兵器廃絶条約」の早期締結の道が切り開かれることを心から切望します。

2015年3月12日

【呼びかけ人（第一次）】（50音順）

有地 淑羽（アホリジョン2000ネットワーク京都代表）

有馬 頼底（臨濟宗相国寺派管長）

安斎 育郎（立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長）

神崎 清一（京都YMCA総主事）

須田 稔（憲法9条メッセージプロジェクト共同代表）

スティーブン・リーパー

（京都造形芸術大学・東北芸術大学共同研究機関「文明哲学研究所」客員教授）

瀬戸内 寂聴（作家・僧侶）

宗川 吉汪（日本科学者会議京都支部事務局長）

長谷川 千秋（元朝日新聞大阪本社編集局長）

花垣 ルミ（京都原水爆被災者懇談会世話人代表）

原 強（NPO 法人コンシューマーズ京都理事長）

益川 敏英（京都産業大学益川塾教授）

宮城 泰年（本山修験宗総本山聖護院門主）

三宅 成恒（核戦争防止・核兵器廃絶を訴える京都医師の会代表世話人）

望田 幸男（非核の政府を求める京都の会常任世話人代表）

渡邊 賢治（医師・原水爆禁止京都協議会代表理事）